

週報

2007年 10月 21日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《今朝の聖書から》今朝の聖書箇所を描かれている話は、実際の歴史と重なっています。当時のパレスチナ、ユダヤの地は、ローマ皇帝の支配下にあり、王はこの皇帝の認められた者でなければならない事になっていました。B.C.4年に、皇帝ヘロデ大王が死に、そのあとをヘロデ・アンティパス、ヘロデ・ピリポ、ヘロデ・アケラオの息子が相続することになりました。彼らがユダヤの王位につくには、ローマ皇帝アウグストのもとに、出向かなければならなかったということになります。アケラオについての物語をユダヤ人なら、おそらく思い出すことでしょう。王は領土を不在にすることになるわけですから、残された者達への信頼があった事に気が付きます。“委ねられた”ということです。13節に“そこで十人の僕を呼び十ミナを渡して言った、「わたしが帰って来るまで、これで商売をなさい。」”とあります。丁度、私たちに、多くのことが委ねられているのに似ています。まず、今朝はどんなに沢山のものが神様から私たちに委ねられているかを思い起こしましょう。商売というのは、まさしく日常的な行為です。ある出来事のことをいうのではなく、日々の、たゆまぬ働きの結果です。イエス様もそうでした。イエス様も30年間を日々のたゆまぬ、我々と同じ働き人として過ごされました。そしてこの与えられた信託も、結果をもたらします。十人の僕は、テストを受けたことになるのです。17節に“よい僕よ、うまくやった。あなたは小さい事に忠実であったから、十の町を支配させる”とありますが、これこそ日常的な働きの積み重ねが評価されたことを意味しています。しかしこの喩えは、人道的で民主的な福祉のような考え方にはつながっていません。けれども、クリスチャンの毎日も、教会の毎日も、基本的には、昨日よりも前進しているか、昨日よりも、より激しい壊れ方に向かっての一步を進んでいるかのどちらかです。十ミナについても(17節)、五ミナについても(19節)、主の評価は、等しいものでした。これがイエス様の経済学なのです。私たちは、比較をします。“豊かな方だ”とか“少ない方じゃないか”とってしまう世界に住んでいます。レプタ二つを大切にされたイエス様は、ここでも同じことを教えられ(ルカ21:2)、ミナ(1ミナは100デナリ、また重量もこれで表すことができました)を用いて私たちに、毎日チャレンジを受け続けることの大切さを教えてください。恵みにはつながらない、優越感や劣等感に振り回されないようにしましょう。